

指導計画の作成

手順1 「学習前アンケート」(児童)の実施

手順2 「題材を構成するためのチェックリスト」(担当教員)の実施

児童の実態や地域の様子等を把握する

手順3 活用する指導計画例の選択

手順4 指導計画例を活用し、選択、重点化

児童の実態や地域に応じた題材を構成する

選択(手順3) 指導計画例1~3

選択(手順4)

- ①題材の導入
- ②実践活動(購入する物を選ぶ活動)
- ③題材のゴールの活動

【題材全体を通した学習の流れ】

指導計画例	①	②	③	重点化
指導計画例1	生活経験や地域性に含ませて題材を設定し、よりよい消費生活のために自分ができることを考える。	1 地域のお店の種類や買物の経験が少ない地域がある	2 買物の疑似体験(体験活動)	3 地域のお店も買物の経験が少ない地域もある
指導計画例2	学校行事や内容と関連させて課題を設定し、目的に沿った学習やよりよい消費生活のために自分ができることを考える。	1 旅行の買物(買物の場面がある行事との関連)	2 家庭で必要な材料の購入(おかず・みそ汁(日常生活の内容と関連))	3 家庭で必要な材料の購入(おかず・みそ汁(日常生活の内容と関連))
指導計画例3	地域の特産物(食品)や学校での栽培体験の感想から課題を設定し、生産者とも目を向けたよりよい消費生活のあり方を考える。	1 3年生の社会学習の想起(地域の特産物や作り手)	2 学校での栽培体験を想起(栽培時の思い出、苦労)	3 3年生の社会学習の想起(地域の特産物や作り手)

手順5 題材構成のポイントを記入

※【活用の手引(おもて面)】より抜粋(赤枠内)

【学習前アンケート】

1	おうちの人と買物に行ったことはありますか。	
2	→ 買物に行く頻度	
3	→ 買物に行くお店	
4	おうちの人と買物に行った際、自分で買物を選んだ経験はありますか。	買物の経験等
5	→ 選んだもの	
6	今まで一人で(または子どもだけで)買物をした経験はありますか。	
7	→ 一人で(または子どもだけで)買物をした経験の回数	
8	→ 買ったもの	
9	買物で買った、失敗したりした経験はありますか。	買った経験
10	→ その時の対処法	
11	おうちの人が買い物で困ったり、失敗したりした話を聞いたことはありますか。	
12	→ インターネットを使って、自分で選んで買物をした経験はありますか。	
13	→ 何を買いましたか。	
14	PCやスマホ、タブレットなど、インターネット上で課金(料金を支払うこと)をした経験はありますか。	いろいろな購入や支払い
15	→ それは何ですか。	
16	バスカードや図書カードをはじめとするプリペイドカード(お店の支払いができるカード)を使った経験はありますか。	

【題材を構成するためのチェックリスト】

1	買物の経験が多い	1-1
2	買物で困ったり、失敗したりした経験のある児童が、ある程度いる	1-1
3	買物の経験が少ない	1-2
4	現金以外の購入や支払いの経験のある者、ある程度いる	重点化
5	その他()	重点化
6	売場の状況	重点化
7	売場環境(店内)	重点化
8	いろいろなお店(大型店、地域に特化した店、コンビニエンスストア)があるか	1-1
9	地域の状況(気候)	1-1
10	地域にお店がとんだない地域ですか	1-2
11	買物行動や、買物の機会がある行事が身近にあり、身近に買物に行きやすいか	2-1
12	お友達に買った人への贈り物の際、買物も取り入れることができる行事はありますか	2-2
13	家庭科の学習で、買物を取り入れることができる内容を受講していますか	2-2
14	家庭科の学習で、買物を取り入れることができる内容を受講していますか	2-3
15	総合的な学習の時間で、買物を取り入れることができる内容を受講していますか	2-4
16	買物に関する学習の機会が、買物に関する機会に比べて少ないか	1-3
17	総合的な学習の時間に、地域の特産物の栽培、飼育、製造に関する機会がありますか	3-2
18	特産物(食品)を栽培、飼育、製造する人に関する学習はしていますか	3-1
19	社会科の学習で取り上げられる身近な地域の特産物(食品)はありますか	3-1
20	特産物(食品)を栽培、飼育、製造する様子を見学する機会がありますか	3-1

花巻市立宮野目小学校版指導計画(研究協力校)

選択(手順3)

指導計画例1

生活経験や地域性に合わせて買物との関わりを想起して課題を設定し、よりよい消費生活のために自分ができることを考える

選択(手順4)

①題材の導入

買物経験の想起
買物体験活動:米

②実践活動

購入するノートを選ぶ活動
「よりよい消費者宣言」(自分でできること)

③題材のゴールの活動

重点化

ゲームでの課金等を含む現金以外のお金の使い方における特徴と注意点に触れる学習場面を設定する(第3時:いろいろな支払い方法)

【研究協力校における指導計画作成の考え方】

- 買物経験が多い児童集団であること、お店の種類が多い地域であることから、指導計画例1を選択。ただし、自分で買う物を選んだ経験のない児童も少数ではあるが、題材の導入では、買物体験活動を行う。
- 購入する物を選ぶ活動として、第1時に米を選ぶ活動、第4時にノートを選ぶ活動を選択。米は他教科との関連を図り(総合的な学習の時間に栽培)、ノートは児童が身近に使用したり、購入したりするものであることから選択の理由。
- 現金以外のお金の使い方における特徴と注意点は、プリペイドカードを使った経験のある児童やゲームでの課金をしている児童が多いことから重点化。

【活用の手引(裏面)】

- 指導計画の使い方を説明しています。指導計画作成時には、選択する部分や重点化できる部分を確認し、授業をする際には、学習活動や学習内容、学習のポイント、評価等を確認することができます。
- 「家庭科の学習の充実に向けたポイント」に沿った指導ができるようになっています。

指導計画作成と授業の実施について

このページの見方

- 学習の充実に向けたポイント
- 指導計画作成の手順
- 授業の際に着目する部分

家庭科の学習の充実に向けたポイント

- 題材の導入で、問題を見いだして課題を設定する学習活動を行う
- 購入する物を選ぶ活動(実践的・体験的な活動)を通して学ぶ
- 教材の見方・考え方を働かせて考える
- 題材の学習の最後は、自分の生活における実践について考える
- 教材の評価の仕方に基づいて評価をする ※【指導と評価の一体化】のための学習評価に関する参考資料を参照

指導計画作成に活用する指導計画例は、下記①~③の考え方に沿って作成しています

考え方①「C消費生活・環境(1)」の指導事項を網羅する

考え方② 実態把握を基に、学習と生活を結び付けて考えることができる題材の学習の流れにする

考え方③ 購入する物を選ぶ活動を設定する

学習のポイント

- ※各時間の指導のポイント、学習のキーワードとして指導事項を示しています。
- 5 題材の評価規準(具体化したもの)と各時間の評価の計画

※評価面に合わせて具体化した評価規準と、各時間の評価の計画を示しています。特に「思考・判断・表現」の評価を適切に行うことがポイントです

各時間の課題例、学習活動例等

※ここに示す内容は、例となります。必要に応じて変更し、右の「その他」欄に書き込みます。

手手順3 指導計画例の選択

1 問題を見いだして、課題を設定する

※この活動を丁寧扱い、児童が学習と生活を結び付けて考えられるようにします。

手手順4-1 選択①~③

2 購入する物を選ぶ活動

※実践的・体験的な活動を通して、生活の中で実践できる買物・能力を育成します

4 今後の実践について考える

※生活に戻して学習をまとめます。「実践しようとする態度(生活科)」を行います

手手順4-2 重点化

※重点化した内容があれば、書き込みます。

3 働かせる見方・考え方

※教材の見方・考え方を示しています。よりよい消費生活を工夫する上での切り所とする見方・考え方を

手手順5 題材構成のポイント

※作成した指導計画のポイントをまとめます。